

EAIC 2026 東京大会を開催

生命保険協会（会長：隅野 俊亮 第一生命保険社長、以下「当会」）は、本年 9 月 14 日（月）から 16 日（水）にかけて、第 31 回東アジア保険会議（EAIC）東京大会（以下「本大会」）を日本損害保険協会と共同開催いたしました。EAIC 発祥の地である東京での開催は、2002 年以来 24 年ぶりとなります。

本大会は、「Back to the Origin, A Bridge to the Future ～Asia Reunites at Tokyo～」をスローガンに掲げ、東アジアをはじめ 20 を超える国・地域から保険関係者が集う国際会議として開催されました。大会には約 660 名の参加があり、保険会社、再保険会社、規制当局、業界団体、学術関係者、メディア等、多様なステークホルダーが一堂に会しました。

大会期間中は、金融規制、自然災害に係るプロテクションギャップ、人材育成、ヘルスケア、サステナビリティ、高齢化社会、デジタル・AI など、保険に関する重要なテーマについて、活発な議論が行われました。以下、本大会各日の模様を紹介します。

9 月 14 日（Day 1）

Opening Ceremony

ご来賓として、小池百合子東京都知事よりご挨拶をいただいたほか、EAIC 副議長兼東京代表理事（当時）の日本生命保険 清水博会長、EAIC 議長（当時）の Sally Wan 氏をはじめとする関係者が登壇し、24 年ぶりの東京開催を歓迎しました。また、大会の開幕を祝して、日本損害保険協会 石川耕治会長および隅野会長による乾杯のご発声のもと、鏡開きが行われました。



Welcome Reception

EAIC 加盟都市の代表者をはじめとする、国内外の参加者が交流し、旧交を温めるとともに、新たなつながりを築く機会となりました。



9月15日 (Day 2)

基調講演「Building Resilience in a Changing World: The IAIS Response to Emerging Risks」

三好 敏之 氏（金融庁 金融国際審議官／保険監督者国際機構（IAIS）執行委員会議長）

マクロ経済の不確実性、地政学リスク、生命保険セクターの構造的変化、気候変動、AI技術の進展等が相互に影響するリスク環境を踏まえた国際的な監督協力の重要性が強調されました。また、資産集約型再保険（AIR）や自然災害に係るプロテクションギャップへの対応、保険業界が経済の安定および社会のレジリエンス向上に果たす役割なども紹介されました。



パネルディスカッション「How to Fill the NatCat Protection Gap」

【モデレーター】河合 美宏 氏（Global Asia Insurance Partnership 議長）

【パネリスト】

Michael F. Rellosa 氏（Executive Director, Philippine Insurers and Reinsurers Association）

Kocu Andre Hutagalung 氏（President Director, PT Reasuransi MAIPARK Indonesia）

Hakeem Benraheem 氏（Chairman of the Property Insurance Committee, Thai General Insurance Association）

Candric Cheng 氏（Assistant General Manager, Fidelidade Macau）

アジアの自然災害プロテクションギャップをテーマに、フィリピン、インドネシア、タイ、マカオの取り組みや災害リスクファイナンス、パラメトリック保険、農業保険制度等の事例が共有されました。プロテクションギャップ解消に向けては、政府・監督当局との継続的な協力や、保険普及、リスクデータ整備等を通じて、保険業界が主体的な役割を果たしていくことが重要であるとの認識が共有されました。



パネルディスカッション「Talent, Trust and Transformation: Is Insurance Still a People Business?」

【モデレーター】 Selina Lau 氏 (Chief Executive, The Hong Kong Federation of Insurers)

【パネリスト】

Julie Chow 氏 (Group Chief Human Resources Officer, FWD Group)

Terence Ho 氏 (Chief Risk Officer, Tokio Marine Nawa Insurance Co., Ltd.)

Amelia Lim 氏 (Acting Head of Brunei Branch, Tokio Marine Insurance Singapore Ltd)

Yeow Hau Tan 氏 (Executive Lead, Integration Liaison (Nippon Life), Acenda Group / Advisor, Nippon Life Insurance Company)

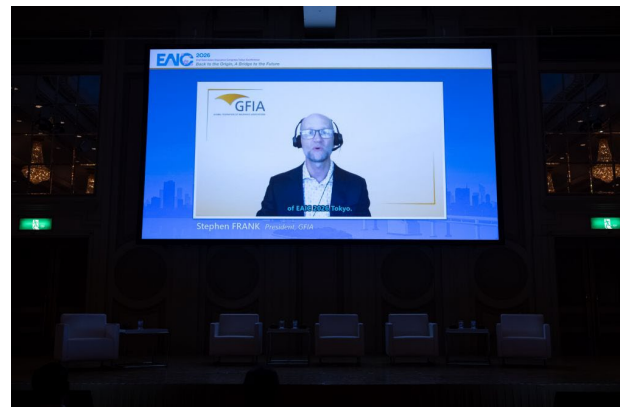
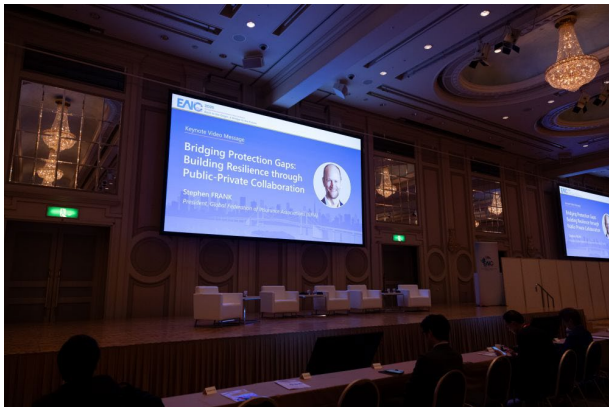
AI やデジタル技術が進展する中でも、保険は顧客との信頼関係を基盤とする「People Business」であり続けるとの認識が共有され、次世代の保険人材には、テクノロジーの活用能力に加え、判断力、共感力、継続的に学ぶ姿勢が求められるとの意見が示されました。さらに、将来の保険業界を担う人材の育成に向けて、個社だけでなく、業界全体で取り組む重要性も確認されました。



基調講演（ビデオ）「Bridging Protection Gaps: Building Resilience through Public-Private Collaboration」

Stephen Frank 氏（Global Federation of Insurance Associations (GFIA) 会長）

自然災害、医療、サイバーリスクなど幅広い分野で拡大するプロテクションギャップは、保険業界にとどまらない社会全体の課題であることが示されました。その対応には、官民連携、新たな仕組みやテクノロジーの活用、予防が不可欠であり、人々や企業のレジリエンス向上につながる取組みの重要性が強調されました。



パネルディスカッション「Beyond SDGs and Well-being — Healthcare Transformation —」

【モデレーター】蟹江 憲史 氏（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授）

【パネリスト】

Kim Soon Chua 氏（CEO, General Insurance Association of Malaysia）

来住 慎一 氏（明治安田生命保険フェロー（サステイナビリティ））

Channtharong Suy 氏（CEO, Forte Insurance Cambodia）

Sally Wan 氏（CEO, AXA Greater China）

高齢化や慢性疾患の増加や、2030 年の SDGs 目標の進捗が道半ばであることを踏まえ、保険業界が健康増進やウェルビーイングの向上にどのように貢献できるかについて議論が行われました。また、健康寿命の延伸や医療へのアクセス向上を通じて、個人の健康のみならず、地域社会や経済の持続可能性にも貢献する考え方が共有されました。さらに、2030 年以降も見据えた「ビヨンド SDGs」の視点から、保険会社が生涯にわたり人々を支えるパートナーとして果たすべき役割についても議論されました。



パネルディスカッション「Climate, Nature, and Insurance: Driving Sustainability in Asia」

【モデレーター】田中 将之 氏（公益財団法人国際保険振興会（FALIA）常務理事）

【パネリスト】

岡野 直幸 氏（国連大学サステナビリティ高等研究所 気候変動と持続可能な開発のためのガバナンスプログラム プログラムオフィサー）

Umang Vats 氏（Asia-Pacific Regional Analyst, United Nations Environment Programme Finance Initiative）

Sara Lamsam 氏（CEO, Muang Thai Life Assurance PCL）

須藤 達也 氏（MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス サステナビリティ推進部 部長）

気候・自然・保険を取り巻く統合的課題に対し、アカデミア、国際機関、保険業界が連携してサステナビリティリテラシーを高める必要性が強調されました。ファイナンス、データ共有、ガバナンス、知識共有を軸に議論が整理され、PSI（国連主導の保険フレームワーク）を活用した好事例が紹介されるとともに、アジアの保険業界がサステナビリティ推進において中心的な役割を担うべきことが改めて確認されました。



9月16日 (Day 3)

基調講演「The Longevity Society: The Impact of Age-Related Cognitive Decline on Economic Activity and Asset Management, and Policy Responses」

駒村 康平 氏（慶應義塾大学経済学部 教授、ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター長）

高齢化と認知機能低下が資産管理や経済活動に与える影響をテーマに、高齢者の保護と金融サービスの利用機会の確保を両立させることの重要性が示されました。また、高齢者が安心して資産を管理・活用できる環境の整備に向け、金融機関、保険会社、行政機関等が連携して取り組むことの必要性が共有されました。



基調講演「Data Strategy, Governance, and Trust for Insurance in the Age of AI」

村上 明子 氏（損害保険ジャパン 執行役員 CDaO（データドリブン経営推進部長））

AI時代のデータ戦略やガバナンスをテーマに、データ品質やサイバーセキュリティが顧客の信頼を支える重要な要素であることが示されました。また「Trust must be designed」という考え方や、AI活用は、単なる技術の導入ではなく、業務プロセスやビジネスモデルそのものの変革につながるものであるとの認識が共有されました。



パネルディスカッション「Balancing AI Innovation and Trust in Insurance」

【モデレーター】高 盛華 氏 (Partner, PwC Consulting)

【パネリスト】

Scarlett Bae 氏 (Director, RNA Analytics)

藤澤 陽介 氏 (住友生命保険 データサイエンスオフィサー)

Chandra Reddy 氏 (Head of Client Digital & Data Solutions, Asia Pacific, RGA Reinsurance Company)

George Alayon 氏 (Deputy Director, Bermuda Monetary Authority)

AI 活用には、データ品質、説明可能性、人材育成等に全社的に取り組む必要があるとともに、AI は人間の判断や能力を補完・拡張するとの考え方が示されました。また信頼に基づく AI 活用の実現に向け、透明性や説明責任を備えた管理体制の整備とともに、保険会社、再保険会社、技術企業、監督当局が連携して取り組むことの重要性について議論されました。



Closing Ceremony

EAIC 前議長の Sally Wan 氏による挨拶後、EAIC 会計幹事の生命保険協会 丹下博史国際部長より、本大会の成果として採択された「東京宣言」([こちら](#)よりご覧ください) が発表されました。

また、EAIC 前副議長兼東京代表理事の日本生命保険 清水博会長より、次回 2028 年の EAIC 開催都市バンコクの代表である EAIC 副議長の Somporn Suebthawilkul 氏に対して、記念楯が贈呈され、EAIC の開催都市としての役割が引き継がれました。

その後、第 32 期 EAIC 理事会メンバーが紹介され、2028 年バンコク大会に向けた新たな体制が披露されました。





今後に向けて

24年ぶりに発祥の地である東京で開催された本大会は、参加者が多様な視点や経験を共有し、市場や地域を超えた交流を深める貴重な機会となりました。

本大会の開催にあたり、ご参加、ご登壇、ご協賛いただいた皆様をはじめ、全ての関係者に心より感謝申し上げます。

当会は、東京大会を通じて得られた知見やつながりを活かし、東アジア地域の関係者との対話と協力を深め、保険業界のさらなる発展に貢献してまいります。

※本大会の公式 Web サイトも併せてご覧ください。

<https://event.jtbbwt.com/event/DaaKNA>

以 上